

# 新春対談

「復興」から「地方創生」へ



## 岩沼市の復興について

**市長** 本日は、宮城大学舟引教授との新春対談ということでお越しいただきました。舟引教授は、岩沼市についてどのような印象をお持ちですか。

**舟引** 東日本大震災（以下、震災）のことを申し上げれば、やはり仙台空港の映像は極めて衝撃的でした。あの映像は日本全国だけでなく、世界中に配信されて震災のすさまじさを訴えかけた映像だと思えます。復興状況では岩沼市はトップランナーを走っているという印象が強いですね。特に6つの集落を1つの防災集団移転事業として玉浦西地区に集約して移転し、かつ被災地の中で最も早く「まちびらき」を行ったということが最も評価されることだと思います。また、千年希望の丘という形に残る未来へのメッセージをつくりだしたことで、それを市民のご協力を得ながら作り続けていること、これも素晴らしいことだと思います。

**市長** 震災から6年8カ月が過ぎて、我々も復興から地方創生へとシフトしている段階に来ているところ

です。  
**舟引** 市長にお伺いしたいのですが、復興のスローガンに「チーム岩沼」や「オール岩沼」という言葉がありました。その言葉が示すように、市民の方々とそれぞれの地域コミュニティを、市の職員が支えて、



ふなびき としあき  
**舟引 敏明** 氏

公立大学法人 宮城大学教授

### 【プロフィール】

東京大学農学部卒業、国土交通省勤務を経て平成28年より現職。都市計画、公園緑地、景観、歴史まちづくりを専門とし、宮城県都市計画審議会長、仙台市杜の都の環境をつくる審議会副会長などを務める。

てもらったというのが大きいと思います。

## 「復興」から「地方創生」へ

**舟引** 先ほど市長から地方創生へシフトしているという話がありました。地方創生の今の政府の動きは、増田寛也さんの若い女性のいないところには人ほとんど住まなくなっていくというレポート「地方消滅」から始まったと言っても、あながち間違いではないと思います。ただし、このレポートでは、消滅を防ぐために、東北を1つの大きな地方としてみた場合、岩沼を含む仙台都市圏が、東北の人口の流出を食い止めるダムとなる、そういう役割を持つことが必要だと述べています。

**市長** 岩沼は、徐々に復興から地方創生に移っています。岩沼は震災で大きなダメージを受けて人口が一時期減りました。地方創生ということ



菊地 啓夫 市長

で人口を増やす、あるいは維持することにつながるのですが、国の言っている交流人口の拡大で増やす方法よりも、私としては企業を誘致しながら人口維持をしていきたい。つまり経済を安定させて、市民の収入を安定させて定住をしよう。そういう戦略を立てています。これが復興と地方創生の基本だと私は思っています。

**舟引** 「住んで良いまち」には人は集まりません。その魅力が、他の地域との競争の武器になるのです。住んで楽しく、そして何かメリットのある仕組み、例えば子育てなどの仕組みづくりが必要です。また、外から多く来てもらうには、山があつて、海があつて、繁華街があつてという小粒でもぴりっとした魅力があるようなまちなのではないかと思えます。  
**市長** 私も舟引教授がイメージしているようなまちづくりをしていきたい。そのため子育てと教育に力を入

れ、あとは働く場所・収入安定、もちろんそれ以外にも、例えば高齢者対策や防災にも力を入れなければならぬ。結果として、総合力というのでしようか。まずは子育てと教育に力を入れて、岩沼の魅力を出していきたいと思っています。人口の話も一番大事な部分なのですが、岩沼はこのまま横ばいで維持していこうというのが目標です。

**舟引** 今人口の維持のお話がありましたが、人口を増やすために何かをしていくというお考えではないのでしょうか。

**市長** 人口を増やそうではなく、今住んでいる人を大事にしたい。今住んでいる人が安心して住める、そして子育てが出来て、教育も出来るまちがいい。岩沼から巣立って、どこかでチャレンジして、故郷へ戻るかという人を受け入れられるようなまちがいいと思います。岩沼に対する想いを持ち続けて欲しい、そういうまちや人を育てていきたい。

**舟引** 「岩沼が好きで、誇りを持っている」ということを、やはり言い続けたいと思います。意外に自分のまちの良さが分かっていないのではないのでしょうか。空港があつて道路があつて、こんな恵まれた土地はそんなにありません。

**市長** 岩沼に住む人が岩沼の良さをあまり理解していないということはあるかと思えます。なぜなら常にアクセスのよい道路や空港を使って幅

広く活動をしていて、それが当たり前だという感覚があります。他の地域では、自分が思ったように移動する手段がないというのが普通なのですが、その分岩沼は恵まれていると思います。

これからの岩沼に必要なこと

**舟引** 冒頭に申しあげましたが、仙台北空港の映像が世界に流れたことは大きな意味があります。これからは復興の過程でいただいた支援を何らかの形で返ししていかなければならない。では、どういう形で返すかというところ、やっぱり「元気になりました」という姿を強く外に発信するのがいいと思います。そして、それが岩沼市の責務ではないでしょうか。  
**市長** 支援をいただきながら進めてきた岩沼の復興を発信していく、暮らしづくりを見せていくことが重要で、情報を出していかなければならないと思っております。まずひとつ行ったのは、マラソン。東北・みやぎ復興マラソンでは1万3千人の参加があり、支援をしてくださった方も大勢お出でいただき、復興の様子を見ていかれました。また、千年希望の丘を中心に、世界中に防災の意識を高めていきたい、「忘れない」というイメージを広げていきたい。

被災地として発信する情報のポイントとしては、「コミュニティを大切にしていくこと」だと思っています。

結びに...

**舟引** 「岩沼が好き」という市民が増えれば増えるほど、未来につながります。それが地方創生の一番の特効薬です。

**市長** 地方創生は人口が減らないよう、住み続けたいまちづくりが原点です。子育てや教育へ力を入れることに加えて、岩沼の魅力を発信しなければならぬ。また、魅力だけではなく経済活動もしっかりと支援して、地方創生は総合力で頑張らないといけない。今住んでいる人が、より安心して暮らせるまちづくりを平成30年も目指してやっていきたいと思っております。  
本日はありがとうございました。



▲玉浦西の東集会所のテラスにて